



奈良県立大学と大阪経済大学が合同で「研究活動ワークショップ」を開催

～ フィールドワークの成果等を発表。コロナ禍で困難な他大学の学生との交流機会を創出～

開催のきっかけ

大阪経済大学の下山朗教授は前任の奈良県立大学の研究ユニット^(注)での活動を継続する中、「奈良地域経済研究ユニット」代表者の村瀬博昭准教授と学生による共同発表の場の提供を企画した。下山教授・村瀬准教授と奈良県立大学で共同研究を行っている南都経済研究所の研究者もアドバイザーとして加わり、2021年7月15日、同大学で「大学生研究活動ワークショップ」が開催された。当日は、コロナ禍で制約の多い学生生活を送る中でも実践的な地域活動に取り組んでいる学生の報告が行われた。

(注) 奈良県立大学が社会的要請の高い分野の自主的研究や学外を交えた共同研究を推進するため設置。「奈良地域経済研究ユニット」は新型コロナウイルス感染症の奈良県経済への影響等を研究。

発表内容の概要

当日授業のため参加できなかった奈良県立大学の2チームの動画を視聴後、奈良県立大学1チーム、大阪経済大学3チームが約10分間のプレゼンテーションを実施した。それぞれの発表後には学生同士の質疑応答や、南都経済研究所の研究者による講評・アドバイスなどをもとに、担当教員から発表内容のブラッシュアップについて指示があった。

各チームは「奈良の地域活性化」に関して様々な角度から独自に設定した仮説をフィールドワークにより検証、社会人にはない視点からの分析結果を報告した。なお、大阪経済大学の学生はほと

んどが県外出身者であったことから、「奈良」を研究テーマにすることの多い奈良県立大学の学生にとっては、奈良に関する新たな気づきを得る機会となったようである。



発表の様子(左上から時計回りに)奈良県立大学村瀬ゼミ/大阪経済大学①/大阪経済大学②/大阪経済大学③

地域課題の解決に学生の力を

コロナ禍でオンライン授業が中心の大学生活を余儀なくされた大学生にとって、今回のワークショップでの発表に向けたフィールドワークは、個人の主体性の発揮と共同作業におけるチームワークの重要性を学ぶ貴重な機会となった。

下山教授は、「今日の地域の課題は複雑化しており、それらの解決を図るためには学生自身の斬新なアイデアだけでは不十分で、アイデアの論理力、データをもとにした証拠力、多方面からの知見を総合的に活用する応用力などが求められる。大学生のうちにこのような機会を活用し、一層学びを深めてもらえたら」と、学生への期待を語るとともに、今後のさらなる成長を促している。

(秋山利隆)

発表者とタイトル

| 発表者 | メンバー (敬称略) | タイトル |
|--------------|------------------------------|---|
| 奈良県立大学きたまち班① | 郷野眞紘、谷井優花、寺田拓実、畠中光季、三宅正真、吉澤舞 | インターネットによるきたまちづくり ～バズる・映える SNS 活用法～ (動画) |
| 奈良県立大学きたまち班② | 佐藤友亮、豊田浩司、山本彩加、北村瞳子、谷口志保 | 地域教育のアップデート ～愛着度に焦点を当てて～ (動画) |
| 奈良県立大学村瀬ゼミ | 青島萌華、中西千浦 | 御杖村レストラン |
| 大阪経済大学① | 前田琉偉、吉ノ元聖也、永岡大聖、井上綾乃、玉川里沙 | 若者を対象とした奈良と京都のイメージ調査 |
| 大阪経済大学② | 池尻龍世、増田峻也、相山和也、松井碧惟、合戸紳 | 奈良県民の鹿への愛について |
| 大阪経済大学③ | 池内彰、徳元綾乃、谷口芽芽、安田未緒、藤岡功太郎 | これからも愛されるせんたくんになるために |